

市民版

グリフォンの壺
(ピアノ)武蔵正美(西区)
洋明会ニュース、情報は社会部へ
231-7333 Fax201-4331Eメール
shakai@chunichi.co.jp中日新聞へのご意見は
読者センターへ

221-0800 Fax221-0819

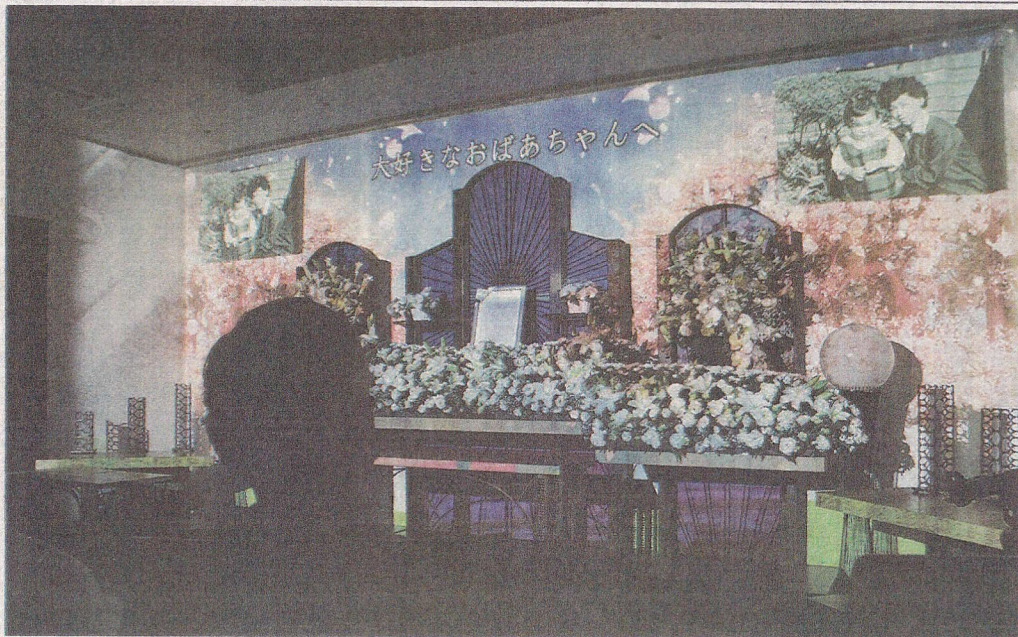
Eメール
center@chunichi.co.jp掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ

上野天満宮

学問守護・厄除招福・交通安全
名古屋天神名古屋市中区赤坂町4-89
電話 052-610-0100 FAX 052-610-0111

- 合格祈願 ●厄払い
- 自動車社 ●安産祈願
- 初宮詣り ●七五三詣
- 地鎮祭 ●竣工祭
- 各種ご祈願 ●出張祭
- 年中受付

葬儀を映像や光、音で演出



壁と祭壇に映像が立体的に投映される「バーチャル葬儀」＝北区山田1の白川会館花音で

北区の老舗式場がプラン開始

花音は一九八二(昭和五十七)年に創業。当時は自宅葬や寺院葬が主流だったが、計五十―百人ほどが参列する「ホール葬」を四組同時に執り行える五階建ての会館を構えた。チェーン展開はせず、北区と東区にまたがる大曽根地区に密着して経営してきた。

しかし近年は、少人数の「家族葬」や、通夜や告別式をせずに火葬だけで済ませる「直葬」が好まれるように。小型化はコロナ禍でさらに進み、市内でも小規模の式場が増えた。花音も今年七月、一階建ての小さな式場に建て替え、家族葬プランを主力とした。

一方、二代目社長の大嶋耐之さん(六三)は、会社や近所の人だけでなく親族まで

建物などに映像を立体的に投映する技術「プロジェクトシオンマッピング」を使った葬儀プランを、北区山田1の老舗式場「白川会館花音」が始めた。故人の写真やメッセージを花火や流れ星の映像とともに祭壇に映し出し、オンライン参列者にも配信する。コロナ禍で小型化が進んだ葬式のあり方に一石を投じる狙いがある。

(梶山佑)

小型化傾向に一石投じる狙い

映像は五種類あり、故人の幼少期や家族の写真、思い出をありがと、「といった故人へのメッセージを盛り込める。「ふるさと」や「千の風になつて」といった名曲が流れる中、遺影を囲むようにれんげが回転する場面や、光の粒に包まれて銀河に誘われるような演出もある。

「戦を通し、生きることの尊さを世代に継承する一助をなす」。同社の社是では、葬儀の意義は、故人の思いや生きざまを残された人に伝えることだとつたっている。大嶋社長は「リアルとバーチャルの融合が生み出す魅力的な世界観で、生きることの大切さを参列者の心に届けたい」と話す。

◎花音 0120(133) 216